木育かわら版

MOKUIKU

知ろう、使おう、広げよう、みやざきの木

Vol. 13

木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

Contents

Page1	みやざき木育プログラム研修会
Page2	都城木青会 木育研修
Page3	みやざき木づかいデザインワークショップ
Page4	木育活動に取り組んでいる保育園・幼稚園の紹介

木育活動推進事業

みやざき木育プログラム研修会

松井 勅尚氏

吉田 理恵氏

講　師：松井 勅尚氏（木育実践研究者、元岐阜県立森林文化アカデミー教授）
　　吉田 理恵氏（ぎふ木育推進員、岐阜県木の国・山の国県民会議委員、ぎふ木育協会副会長）

日　　時：令和２年７月９日(木)　13:00 ～ 16:00
モデル園：社会福祉法人森と風の郷　四季の森こども園（日南市）
場　　所：四季の森こども園子育て支援センター「シャーロットの家」

日　　時：令和２年７月 10 日(金)　13:00 ～ 16:00
モデル園：社会福祉法人恵浄福祉会　幼保連携型認定こども園めぐみ保育園（宮崎市）
場　　所：めぐみ保育園

この研修会は、〝みやざき木育プログラム〟の円滑な推進を図るため、実践研究者によるスタートアップ研修を受講し、宮崎県における木育推進（モデル）園として活動してもらうことを目的として行われました。

➤ 木育概論　　松井 勅尚氏

日本のひなた（2020-2040）「みやざき木育モデル園スタートアップ」
- 木と人の命を育むために -

木育とは〝木と人の命を大切にする心を育む教育〟です。人の命を大切にすることは勿論ですが、木(自然）の命のことも考えながら共に暮らしてほしい･･･宮崎全体がそうなってほしいと願い、20 年間の実践研究で得たことを伝えたいと思います。皆さんが今まで取り組んできた事を、改めて木と人の命の視点で〝捉え直し〟をすること。これがモデル園事業だと考え協力してほしいのです。

○日本の課題

先ずは木の課題として、人間が関わった森である人工林を最後まで面倒を見切れていない、看取れていない。これが大きな問題です。例えば、犬や猫などペットは、関心を持って可愛がり、家族同様に暮らし最後まで面倒をみます。また人の課題として、相変わらず、いじめや自殺や虐待など悲しいニュースを日々耳にします。
〝日本人は、人の命も木の命も大切にできていない〟
私は、ここからスタートした方が良いと思っています。

○岐阜のモデル園で得た５つの成果、そして宮崎でのこれから

2010 年から 2012 年の３年間、林野庁補助事業として岐阜県内の２つのモデル園の協力のもと、木育プログラム開発の実践研究をすることができました。そして、５つのチカラが育まれたことをモデル園にて検証できました。

１つ目：〝樹と木を感じるチカラ〟
２つ目：〝ものを大切にする心〟
３つ目：〝工夫するチカラ〟
４つ目：〝根気ややる気〟
５つ目：〝協力する心、気づかう心〟

四季の森こども園

めぐみ保育園

2020 年。ここからスタートする〝みやざき木育〟には、６つ目として、〝地域とつながるチカラ（対話力）〟が重要であると考えます。これから進めるうえで、次の３つのこと①「学ぶ」②「生き物」 ③「道具」を頭において、皆さんともに模索していきたいと思います。

➤ 木育カフェ　　吉田 理恵氏

木育カフェとは”木のものづくり”＋”ワールドカフェ”をヒントに開発されたコミュニケーションの手法です。今回は、みやざき木育教材（森の雫）を磨きながら、「園の自慢できるところ」など３つのテーマで話し合って頂きました。参加した保育士の方々からは、「どういう考えでやったら良いの かが分かった」「作業しながら話すこと は発達障害の子どもにも良いのでは？と 感じた」「木のことを分かってなかった。色んな事を考えさせられた」など、短い時間の中でも木育の理解に繋がる充実したコミュニケーションを図ることができました。

小学校に入学された娘さんが初めて学校図書館から借りた本が『むささび星』。宮崎の飫肥杉にまつわる話です。母親が宮崎県に関わっていることを知らない娘がこの絵本を手にしたことの驚き、自分が取り組む「木育」に対する目に見えない成果の一つと捉えたいと仰っていました。

四季の森こども園
会場様子

めぐみ保育園
会場様子

企業を対象とした木育研修の実施

都城木青会 木育研修

講　　師：松井 勅尚氏・吉田 理恵氏
日　　時：令和 2 年 7 月 10 日(金)　18:00 ～ 20:00
場　　所：宮崎県木材利用技術センター　大会議室
参加者数：39 名

都城木青会の勉強会の 1 つとして松井先生と吉田先生を講師に、木育研修を行いました。日頃行っていることを木育の視点でとらえ直し、森と木に関わる仕事の担い手として何が必要か、そして、業界が憧れの仕事であり誇りある仕事であることを意識することが大切だと教えて頂きました。

木に触れて、木と遊び、木を学ぶ
MOKUIKU

吉田 理恵氏

木育カフェ　テーマ 1「マイブーム」
　　テーマ 2「あなたの（会社）の強みは何ですか？」

都城木青会若松会長の挨拶から始まった今回の研修会。まずは、吉田先生による木育カフェが行われました。テーマは 2 つ。時間も限られていましたが、それぞれのテーブルで交流を図りながら、“森の雫” 磨きを行いました。

若松会長挨拶

松井 勅尚氏

木育講演会
演題：日本のひなた 2020-2040 木と人の命を育むためのマネジメントを目指して
　　ー子どもから大人までの一気通貫した人づくりのために捉え直しの視点ー

講演会の前に、質問と宮崎木育テストを実施。質問①好きな木は？②都城の誇りは？③10 年後どんな都城（宮崎）になってほしい？　テストは宮崎県の木は？日本で一番長生きな生き物は？木の絵を描いてみて。など全部で 10 問。

木育テスト実施中

➤ 捉え直し

20 年間どの県でも実施しているテストだが、一番好きな木を答えられない。好きな花は？と聞くと理由も話せるのに、木になると話せなくなる。つまり、木に関心がなくなっている。これが「木育」をやらなければならない理由でもある。木の絵についてもそうだが、根っこまで描く人が少ない。日本人は土から上しか描かない人が多いように思う。この見えない “根っこ” を育むことが木育の大事な役割だと考えている。根っこを育むためには、目にみえる葉っぱなどで勝負するしかない。その葉っぱとは、建物や家具、作る体験などのことで、その担い手が皆さんである。太陽にあたる部分だ。太陽のように降り注ぐ皆さんが「木は良いよね？大切だよね？」と伝える活動そのものが、皆さんが行っている木工教室という場。そこに、〝願い〟を込めているか？心にしみこませる気持ちで紙やすりで磨いているか？ノコギリで切っているか？その実施する皆さんの想いが一番大事。そういう意味でも、今までやってきたことをもう一度「木育」の視点で “捉え直し” が必要。そのための視点を 3 つと提案を 1 つお話しする。

➤ 強みは何か？

皆さんの強みは？都城木青会の強みは？強みとは当たり前にできることで、だからこそ自分では気付かない。それこそが強みだ。いろいろな人と交流し、会社の強みを自覚し、明確化し、強みを強化していく努力をする。最善を尽くす。ドラッカーがいうように「人が成果を上げるのは強みによってのみである。」

視点①　CSV

【C(クリエイティング) S（シェアード）V（バリュー)】訳すと「共通価値の創造」。儲けることがそのまま社会貢献に繋がる。企業でやっていることがそのまま社会の役に立っている。この考えや視点を持って取り組んでみてはどうか？
提案としては、「林産業と人づくり教育」の共通価値の創造。

山に人が住んでいるということは、働いている親がいる。その産業のことも考えて教育していくことが重要。産業のことを考えないと誰も山に住まない、住めない。山村の学校が廃校になってはじめて教育に影響があることに気づく。その事実の共有を教育関係者に皆さんのほうから働きかける必要があると思う。

視点②　日本的 SDGs

10 年後の 2030 年が達成目標の年となっている SDG s。持続可能な家業、商売にするには、何をやれば良いのか。また、都城木青会は何に取り組めば良いのか、ということを明確にしていくことがとても重要になる。

提案した「日本的 SDGs」というのは、“人間は自然の一部である” という考え方だ。皆さんは木を使っている。それには持続可能な森林資源が必要だ。この当たり前のことを改めて捉え直すことが重要である。ESG 投資というのがあるが、「環境問題の改善への取り組み」「地域社会への貢献」「従業員への配慮」「法律順守の企業活動」などの課題に前向きに取り組んでいる点も含め評価されることから、それらを投資家に見える化していくことが大事な時代になっている。

視点③　with コロナ

“新しい生活様式” と言われるが、3 密を避ける、手洗いをするなど、これらの衛生管理が一番大事だが、生活文化の視点も大切であると思う。私は「丁寧な暮らし」だと考える。当たり前のことを丁寧に向き合うことで、何ができるのか考えて欲しい。

➤ 提案　ＩＷＩ “包括的な豊かさの指標”

経済学者スティグリッツが提唱している新しい経済指標で、その内容に 4 つの要素がある。
・自然資本 (森林資源)　・産出資本 (インフラの量と質)
・人的資本 (教育)　・社会資本 (人とのつながり)
私は人的資本、社会資本に注目している。2 つが上手くいかないとせっかくある自然資本を宝の山と思えない教育になってしまう。山の資源を資源と思える教育としなければならない。出来ていないとするならば、産業界そのものが自ら教育をしていくことを提案していかないといけない。

木青会として取り組んで欲しいのが、皆さんが働いている姿を子どもたちに見せ、“憧れの仕事” になるようにして欲しい。子どもたちが皆さんの仕事を引き継ぐことで、持続可能な仕事となる。そのためにも、人生の中で一番強力な模倣力を持つといわれる 0 歳～ 5 歳までの子どもたちにぜひ見せて欲しい。

また、これからは地域全体のことを考え連帯していくことが大事。“今までにない連帯” も模索してほしい。最後にドラッカーのことばを贈ります。「人こそが最大の資源」

研修が終わり、木青会の久保副会長より木青会の活動を行っていくにあたり、自分の熱量をあげていきたいとの言葉がありました。

久保副会長挨拶

高校生を対象とした木育授業の実施

みやざき木づかいデザインワークショップ

宮崎の誇る森林資源を生かした新しい「くらしの提案、ものづくり」を、デザイン思考、プロトタイピングを通じて体験し、学生たちが広く社会の様々な人たちや産業に触れ、学び、地域や社会に関わる人材として成長することを願い、取り組んでいきます。

武蔵野美術大学若杉教授 WEB セミナー
【宮崎工業高校 日向高校 宮崎大学 デザインのはじまり】

講　師：若杉 浩一氏（武蔵野美術大学クリエイティブイノベーション学科教授）
日　時：令和 2 年 6 月 26 日(金) 13:30 ～ 14:20

➤ モヤモヤの人生

学生の時、デザインは世の中を美しくすると信じていたが、会社では売上の話しかない。ヒット商品を作れば作るほど自分のデザインが地域からお金を吸い上げているような思いになった。そのモヤモヤを会社にぶつけても、余計な事と言われ長い間デザインから離れていた。その時に色んなものにチャレンジしたり救いを求めたが、モヤモヤがとまらず、やっと分かったのが、「自分がデザインが好きだ」ということだった。デザインの仕事に戻り、社会を美しくするデザインをやってみたい、と思い、美しいデザインをするのであれば、デザインが地域に関わらなければならないと思った。スギの未来と日本の未来を想い、“スギ”をデザインすることを考えた。1 人で始めたことだったが、自分のデザインで地域が元気になっていくのを見て、デザインの意味が分かったような気がし、心のモヤモヤも晴れていった。そうしたなか、宮崎とも縁があり、日向市にも関わった。地域の小学生たちと日向市駅を中心としたまちづくりを行った。子どもたちは自分たちのマチを自分のものだと思って活動していた。子どもたちから、デザインはカタチを作る美しいモノをつくる事だけでなく、人の活動も変えるということを教えてもらった。

武蔵野美術大学井口教授 WEB セミナー
【〝あば＆いっちゃが〟D のすすめと課題説明】

講　師：井口 博美氏（武蔵野美術大学クリエイティブイノベーション学科教授）
日　時：令和 2 年 7 月 3 日(金) 13:30 ～ 14:20

➤ 3 つのメッセージ

① 時代の変化はアートやデザインにとって大きなチャンス！
　→社会のイノベーションをどう起こしていくか
② デザインを制する者は世界を制する！
　→世界を動かした大物たちには共通点がある
　　・夢中になれる好きなものがある
　　・いつでも馬鹿になれる素質があり仲間がいる
　　・誰も気づかない発見力とデザインセンスがある
③ モノ作りの習得は創造的思考力を養い鍛える
　→モノを作るだけでなくモノを作る意味、重要な学びがどこにあるのかをモノ作りから学べる

宮崎工業高校インテリア科コンセプト・デザインワークショップ

日　時：令和 2 年 7 月 28 日(火)

課題に沿ってアイデアを出しプレゼンを行いました。

デザイン案	用途	先生方からのアドバイス
1 班 ポケットマスク & スマホケース	マスク入れ	簡単に作る方法やバリエーションを考えるヒノキやスギのオイルを利用するのも良いかもしれない（若） どこに持たせるか、取り出す姿を想像しかっこいいシーンを考えるといい。（井）
2 班 まかせてワニ & suwalower & 木をつかったスマホケース	ドアノブや吊革、タブレットなど直接触れないツール	必要なものを優先させて、一番適した形を見つける。ワニに束縛されない（若） 安全性を考える。対象や使い道を分けても良いかも（井）
	かんなくずの花を椅子に置いて距離を保つ	花だから花瓶、でなくても良い。もっと簡単にシンプルにできるかも。（若） 水の代わりに木球を入れて、それに香りをつけても良いかも（井）
	スマホケースに 1m 伸びる棒がついており、先に宮崎名産をかたどったシリコンがついている	スマホケースをやめて素敵な棒でも良くないか？（若） 折り畳み傘、カメラの三脚、ステッキなど実用品や魔法の杖などで考えても面白い（井）

若杉 浩一（わかすぎ　こういち）
1959 年生まれ。熊本県天草郡出身。
1984 年株式会社内田洋行に入社し、商品企画やオフィス家具の計画、デザイン、システム設計に従事。2013 年に社内デザイン会社パワーブレイス㈱にて、IT とデザインとコンテンツを制作するデザイン集団「リレーションデザインセンター」を設立。また、地域と社会、企業との格差や矛盾に着目し 2002 年日本全国スギダラケ倶楽部を発足。

日南市の子育て支援センター“ことこと”では、高校生たちが、施設に入れるおもちゃ作りに一緒に取り組んだ。この時、地元の高齢者にも手伝ってもらったが、彼らは「高校生のフレッシュなアイデアに触れて、会いに行くのが楽しい」と言っていた。これは、形作ることに意味があったわけではなく、自分の存在、役割、成長という喜びを共有するための“デザイン”がここにあった。

➤ 自分の色を作ろう

未来のデザインは、他人事ではなくて自分事に生きていく喜びのためにデザインしていかなければいけない時にきている。今の思いを表現すること（活動とか、実体化すること）がデザイン。小さい自分事が未来につながる。私たちは生まれたときから表現者であり、あきらめず、自分の未来は自分で作る自分事として“今”と向き合って欲しい。何かに期待しても、誰かのせいにしても、何も起こらない。全ては小さい一歩から始まり、積み重なり、未来につながる。未来はあなたたちが作る。自分を生きよう！自分の色を作ろう！

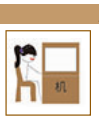
井口 博美（いのくち　ひろみ）
デザインマネジメント、デザインサーベイ、マーケティング
1956 年福岡県生まれ。武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科卒業。感性工学やマーケティング手法をベースに、自動車や情報通信機器等 ID 系を中心としたデザイン評価やデザインマネジメントの方法論を独自に研究・開発。基礎デザイン学会会員（設立発起人）、日本感性工学会会員（デザイン経営部会）、芸術工学会会員。

デザインとは想いを形にして社会的価値に変身させること。デザインの上達のためには、「考えながら作る、作りながら考える」を繰り返すこと。そうすれば①“頭で描く”ことができるようになる②“手で考える”ことができるようになる。そうなると頭と手と両方で描いたり考えたりすることができるようになる。

ワークショップの課題

「新型コロナウイルス感染症による WEB コミュニーションの促進状況での木を使った（気を遣った）、豊かで、素敵な新しいコミュニケーションの提案」

【材料としての「木」と気持ちの「気」を使った豊かで新しいコミュニケーション】

デザイン案	用途	先生方からのアドバイス
3 班 パーテーション & ヒッカケルン & よくばり BOX	 パーテーション	たためるのか持ち運べるのか。使う場面を考えると大きさ、雰囲気も決まってくる（若） 使いやすさや機能性を考えることもデザイン。座る位置なども考えて（井）
	カートを直接触れないツール	折れるかもしれない。実験・検証してみて。（若） メンテナンスも考えて、安全で簡単なもの、形を見つけて欲しい（井）
	マスク、ティッシュ、体温計が入れられる箱	実際に使ったときの便利さや特徴を考えてみて。素材、形、大きさを確かめる（若） 自分の手が安全ではないかもしれないので、年中自分の手で開閉するのは心配（井）
4 班 木の持ち手 & Don't Touch	買い物かごの取っ手を直接触れないツール	握る時にシンプルで使いやすい形を検討して。使わないシーンでの保管は？（若） 現在使用されている買い物袋の手提げホルダーである紐やプラスチックを木にしても良いかも（井）
	エスカレーターの手すりなどを直接触れないツール	コロナでなくても使えるシーンがあるかも素材を検討して（若） 手のひらサイズということでリサーチを（井）
5 班 木製スタンプ & クリップ	マスク保管のためのクリップ、かわいくするスタンプ	木を使う理由が分かるといい。使う風景を想い浮かべると素敵なものができる（若） アイデアの注入が必要。良いポイントはあるので活かす（井）

みやざき木づかい県民会議　木育かわら版　Vol. 13
2020年8月●日発行
発行人：宮崎県森林林業協会　編集：みやざき文化村

こども園へのマスク寄贈と木の香りをテーマにした木育教室

日　時：令和２年５月12日(火) 10:00 ～ 12:00
場　所：社会福祉法人木花福祉会　木花こども園（宮崎市）
参加者：木花こども園年長児

子どもたちが描いた様々な木の絵

新型コロナウイルス感染症の拡大により、事情も分からないうちに外遊びや遠足を制限され、目に見えないストレスにさらされている子どもたちが心配されます。そこで、宮崎県森林組合連合会が、木花こども園に布マスクを寄贈し、木の香りをテーマにした木育教室を行いました。

講師：大地俊介氏（宮崎県森林組合連合会）
暮らしのなかに木があることを知ってもらい、木の香りのひみつについてお話ししました。

いろんな樹種の葉っぱや木に触れてもらい、違いに気づいてもらいました。

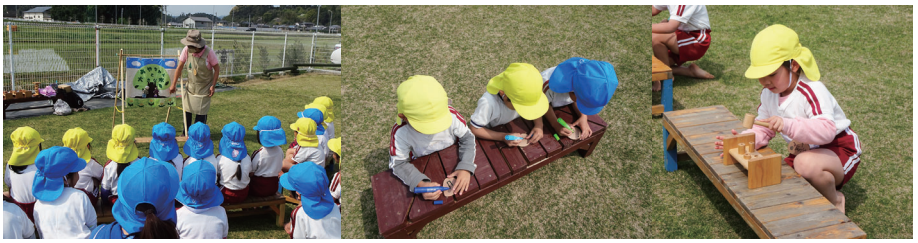
４種類の木の香りをつかった、香り当てゲームも行いました。

コップに入った木の香りのコットンを真剣に嗅いでいます

先生、分かるかな？

生目幼稚園 木育教室

日　時：令和２年４月９日(木) 10:00 ～ 11:30
場　所：学校法人坂本学園幼保連携型認定こども園
　　生目幼稚園（宮崎市）



生目幼稚園では、年長児を対象に一年を通じ木育プログラムを実施予定です。４月は木育の導入として、木育サポーターによる布の絵本で、木の命と人の命の成長について学んだあと、丸太の輪切りに名前を書きネームプレートを作りました。そのあとは、ハンマートイで遊びました。

日　時：令和２年６月４日(木) 9:30 ～ 11:00

↑園長先生が木の匂いを嗅いだり、木が好きなことを話しました

←絵本『ごろりん ごろん ごろろろろ』の読み聞かせ

６月はまず、保育士の先生が絵本の読み聞かせを行い、そのあと、園長先生が木端で木の話を行い、様々な木端と木の実を材料にカタチを活かしながら作品を仕上げていきました。

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年２月に設置し、木づかい運動を進めてきました。
木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

お問い合わせ
みやざき木づかい県民会議　木育ネットワーク部会　事務局
宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室
〒880-0802　宮崎市別府町３番１号　宮崎日赤会館2F　　TEL：0985（27）7682 / FAX：0985（25）2398
※木育かわら版の発行には「宮崎県森林環境税」が活用されています。

木に触れて、木と遊び、木を学ぶ